

事業報告

講座名	環境学習講座「竜王山の自然観察会」		
日時	平成28年10月10日（祝・月） 9:30～15:00		
場所	きらら交流館、本山岬、竜王山及びその周辺	参加者数	43人

1. スケジュール

9:10～	9:30	集合、受付（きらら交流館）
9:30～	9:35	開講式
9:35～	11:50	本山岬・ハマセンダン探訪 （各自自家用車で移動：2か所）
12:00～	12:45	昼食、休憩（きらら交流館）
12:45～	13:15	講座「竜王山の自然と保全活動」
13:25～	15:00	野外観察「竜王山公園の山野草、アサギマダラの観察等」 （各自自家用車で竜王山公園駐車場へ移動）
15:05～		アンケート記入、解散（駐車場にて）

2. 活動内容

午前中は、きらら交流館から本山岬に移動し「くぐり岩」などを観察した後、ハマセンダン等を観察した。午後からは、きらら交流館で本山会の嶋田紀和氏による「竜王山の自然と保全活動」の講義を行った後、竜王山公園駐車場に移動し、山野草やアサギマダラの観察会を行った。

◇ 講義

【ハマセンダン探訪、本山岬】

講師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏（本山会）

自家用車に分乗して各観察場所まで移動し観察会を実施した。本山岬の観察時間を干潮の午前としたため、下の浜辺に降りて、くぐり岩などの奇岩を観察することができた。

日本には1850ヶ所の岬があり、瀬戸内海には26ヶ所ある。岬とは丘・山などの先端部が平地・海・湖などに突き出した地形を示す名称であり、突き出した地形の規模や大きさが小さくなると崎や鼻へと名称が変わる。（例：宇部市妻崎、岩鼻）

竜王山の主な土壌成分は緑色片岩で、酸化すると粘土となる。そのことから昔、この地域では須恵土器が多く生産されていた。今年の10月4日には本山岬で須恵土器の完全な形のタコツボを発見した。（拾った？）須恵土器は低温で焼かれた土で、現在の陶器は高温で焼くため固いが、低温で焼かれた須恵土器はやわらかいため、現在、完全な形で発見（発掘）されるものはほとんどない。



昔は生きものが多く豊かな海だったが、乱獲や環境汚染で生きものが少なくなった。くぐり岩は砂岩でできており、現在も波で削られ少しずつ形が変わってきている。ここは東京からも取材に来るくらい夕日がきれいな場所である。本山岬や竜王山からは6州（周防、長門、豊後、筑前、豊前、伊予）を見ることができる。10日も少し見にくかったが6州見ることができた。干拓前は宇部市の妻崎まで見えた。

ハマセンダンはミカン科の木で幹周りは5.2mで、2013年5月に市の天然記念物に指定された。樹齢は250年前後と見られ、木肌はゾウに似た色・質感をしている。ハマセンダンは雌雄異株だが、確定には至っていない。

徳島県にも県文化財でハマセンダンが登録されているが、目通りは3.2m。2年前まではハマセンダンの周囲にロープが張ってあるのみであったが、周囲の樹木も間伐され、今年は、根元が踏み固められないよう、柵が設置してあり、以前よりハマセンダンが見やすくなっていた。



【講座「竜王山の自然と保全活動」】

講師：嶋田紀和氏（本山会）

きらら交流館で、竜王山の自然や見られる動植物、保全活動等についてPWPを見ながら説明を受けた。

江戸時代の地図（干拓前）を見ながら、竜王山は小野田市のランドマークであり、市街地に囲まれているが山野草の宝庫で、渡り鳥の中継地になっている。

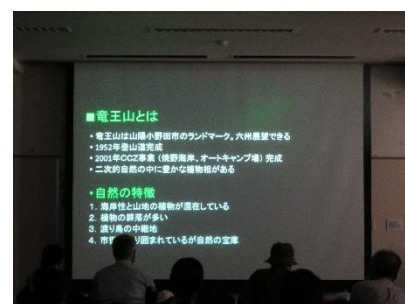
竜王山の自然の特徴は、山野草の種類が山口県で2番目に多いこと（自称：秋吉台の次）、海岸性と山地性の植物が混在していること、植物の群落が多いことである。

竜王山は、公園として管理され、草刈り（年2回）等の人の手が入って維持される二次的な自然であり、アマナやコバノタツナミ、ウバユリなど写真を示しながら植物の紹介があった。昆虫ではヒメボタルやアサギマダラが紹介された。

アサギマダラは、春には西南諸島から本土、秋には本土から西南諸島へと、一定の温度を求めて移動する「旅するチョウ」である。

竜王山に自生するアサギマダラが好む3種（ヒヨドリバナ、サワヒヨドリ、サケバヒヨドリ）の花の種から苗を育て植栽する活動「アサギマダラおいでませ作戦」を2009年から実施しており、本山小学校の「緑の少年隊」をはじめ、地元住民と一緒に苗づくりや植栽、草刈りなどの活動を行っている。他にも、竜王山では自然保護活動を行っている

- 2000年 モリアザミ保全活動開始
- 2002年 ヒメボタル観察会
- 2008年 竜王山公園の指定管理者に関わる
- 2009年 アサギマダラおいでませ作戦開始



■竜王山とは

- 竜王山は山陽小野田市のランドマーク、六州最盛である
- 1952年登山道完成
- 2001年CC2工事実施（雄野海岸、オートキャンプ場）完成
- 二次的自生の中に豊かな植物がある

■自然の特徴

1. 海岸性と山地性の植物が混在している
2. 植物の群落が多い
3. 渡り鳥の中継地
4. 市街地から取り囲まれているが自然の宝庫

【野外観察「竜王山公園の山野草、アサギマダラの観察等」】

講師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏（本山会）

自家用車で竜王山公園中腹の駐車場に移動し、2班に分かれて野外観察を行った。駐車場のすぐ近くにヒヨドリバナ等を植栽した花壇があり、多くのアサギマダラを観察することができた。

アサギマダラは、9月下旬から飛来し、平年は10月2日か3日今年は10月6日に見られた。（気温が下がらなかった為と思われるとの説明があった）。アサギマダラの主な活動時間は午前が10～11時、午後が3～4時の1日2回で、風のない暖かい日に多く見られる。アサギマダラは人を怖がらないので、近づいてきた時は簡単に捕まえることができる。捕まえると死んだふりをするが、放つとまた飛ぶ。

ヒヨドリバナ等の近くを飛んでいるのはほとんどオスで、ヒヨドリバナ等の花の蜜に含まれるアルカロイド（毒）を吸ってフェロモンに変えると紹介された。アサギマダラは4ヶ月の命で、南から日本に渡ってきて、北で繁殖し死ぬので、また南に帰ることはない。北で生まれた子どもが南に移動し旅を繰り返す。移動距離は最高で2,500kmと言われ、和歌山からホンコンまで飛んだ蝶が確認されている。体長は約10cmとアゲハチョウと同じくらいで、4枚の薄くて丈夫な羽根があり、触っても鱗粉が付かない。羽根に黒い点があるのがオス。気温に敏感で23℃が適温なので寒くなると竜王山から南に移動する。蝶の名前に「マダラ」が付くのは渡る蝶である。

ツルニンジンの群生地を見た後、車道の脇を通って山頂へ向かい、戻るコースを歩き、花が見られる植物と一緒に、この時期以外に咲く植物の群落（ツユクサ、モリアザミ、ヒトリシズカ、ウバユリ等）も紹介された。

ツルニンジンの群生地があり、4年前は90本の支柱を立てたが、今年は500本の支柱を立てた。少し人の手を入れることで群生地ができる。

（草刈りと支柱立てを実施）

ヌスビトハギ ～ 盗人の足跡に見立てた

ウバユリ ～ 花が咲くと葉が無くなる。1個の実に約200個の種ができる。風で種を飛ばす風媒花である。

ボタンクサギ ～ 花筒は2cmと深いので大型のアゲハチョウしか蜜を吸えない。

ツユクサ ～ 1日花で見えているおしべは飾り。虫による受粉ができない場合は、花がしぼむときに雄しべと雌しべを一緒に巻き込み自家受粉する。

モリアザミ ～ 竜王山では3種類のアザミが見られ、この時期に咲くのはモリアザミとヨシノアザミで、他は春に咲くノアザミ。モリアザミは2000年よりロープを張って保護地域にしている。アザミのトゲは動物に食べられないようにするための防



御策。虫による受粉のため花にはトゲはない。自家受粉を避けるため花は雄から雌に性変換する。種子散布の方法は風による風媒花

竜王山には桜の木が多く植栽されているが、テングス病が多くみられる。治療は病気になった枝を切り落とし、焼却するしかない。高所作業車で平地や道沿いは治療しているが、斜面の桜は治療できない。すべての木を処置できるわけではないので、治療をした木も、また病気になってしまう。このように1種類の植物だけの環境では病気等で絶滅してしまう危険がある。他に観察した植物 ～ ヤマハッカ、コオニユリ、ヒトリシズカ

4. まとめ・感想

50人の参加申込者があり本山会の協力で全員参加としたが、当日は43人の参加であった。風もなく良い天候だったため、本山岬や竜王山公園で楽しく観察会を実施できた。

多くに参加者が目当てにしていたアサギマダラはまだ時期的には早いと言われていたが、午後になりヒヨドリバナに寄ってくる多くのアサギマダラを観察することができた。

1日を通して講師を務めていただいた本山会の嶋田紀和氏、柴田満幸氏の説明は理解しやすく親しみやすい内容で大変好評であった。また、野外観察の際は、歩く距離を短くするなど、参加者の状況に配慮していただき、とてもありがたかった。

竜王山は管理が行き届いて観察しやすい場所なので、来年度以降も観察会を継続実施する予定である。